地域企業の育成へ

活発な商談会

「東北のモノづくりの裾野の広さを改めて思い知らされた」―。6月にセントラル自動車（現トヨタ自動車東日本、宮城県大衡村）で開かれた「山形県自動車関連企業展示商談会」を見学した葛原徹社長（当時、現トヨタ東日本副社長）は各ブースを周りながら、参加企業の担当者と〝モノづくり談義〟に花を咲かせた。

山形県で展示商談会
マッチング活動を強化

商談会に参加した企業数は31社。プレス加工、機械加工、ゴム製品、樹脂加工、鋳造・ダイカスト、表面処理、設備装置など幅広い業種が集まった。東北地方の自動車産業の発展には地場企業の育成が欠かせない。東北6県の産官学で組織する「とうほく自動車産業集積連携会議」もトヨタ東日本の現地調達率の向上を最重要課題の一つに位置づけて、トヨタグループと地場企業を結ぶ展示会を積極的に開催中だ。

今回の展示会に参加した日神機工（神奈川県横須賀市）は精密加工に強みがあり、山形工場（山形県村山市）のほか全国に五つの生産拠点を持つ。シフトレバーや排ガス規制対応フィルター接合部品、クラッチシリンダーなど高い精度を要求される部品が得意で、取引先は国内外の自動車メーカーのほか油圧機器メーカーだ。米ゼネラル・モーターズ（GM）や独アウディなどの海外勢からも受注している。

担当者と技術的な議論を交わしながら、葛原社長は「海外勢も難しい部品は日本に頼らざるを得ない。これからのモノづくりはコスト競争だけではダメだ。人まねできないような技術を大切に残していく必要がある」とエールを送った。

レーザー加工と封止、塗装を組み合わせた独自技術に強みを持つ磐田電工山形工場（山形県河北町）。デジタルカメラや多機能携帯電話（スマートフォン）、ゲーム機、小型精密機器などの筐体・外装が得意で、自動車の内装部品などに応用可能な技術を展示した。

通常であれば、レーザー加工後に封止・塗装しても微細な穴が見えてしまう。これを封止方法の改善で、加工した穴はほとんど目立たなくした。背面から照明を当てると、きれいに文字や図柄が浮き彫りになる。デジタルカメラやスマートフォンで培ったデザイン性を自動車の内装部品や外観部品、イルミネーションなどに応用できないかという提案だ。葛原社長は「足元に使う照明などいろんな用途が考えられる面白い技術だ」と話し、技術的な説明に熱心に耳を傾けた。

金型の設計・製作からプレス加工、ろう付け、リーク検査まで一貫した生産を持ち味とする三芝工業（山形県上山市）は、ろう付け不良発生ゼロを実現した技術をアピール。アーレスティ山形（同白鷹町）が展示した高熱伝導材のダイカスト量産技術には「プレゼンテーション用に技術内容を簡単に表示してあるが、これは本当に難しい技術だ」と興味津々。

東京スカイツリーに使われている巨大なエレベーター部品を製造した渡辺鋳造所（山形市）のブースでは、「巨大な鋳物をしっかり作れる技術力はすごい。自動車にも展開できる」。その他のブースでも担当者から熱心に話を聞き、同席した高橋節山形県副知事に技術のポイントを説明する〝指南役〟も務めた。担当者との会話に熱中するあまり、予定していた1時間をオーバー。主催した山形県の高橋副知事も「技術力の高さを十分感じていただいたと思う。このような企画を通じて東北企業からの部品供給を増やしたい」と満足した様子だった。

出展者と活発な意見交換が行われた

現地調達率の向上へ
参入希望企業を後押し

現在、トヨタ東日本の東北地域の企業からの調達率は4割ほど。この底上げが自動車関連産業の基礎を厚くするためには欠かせない。トヨタにとっても地場企業からの調達が増えれば、これまでかかっていた輸送費などを削減できる。

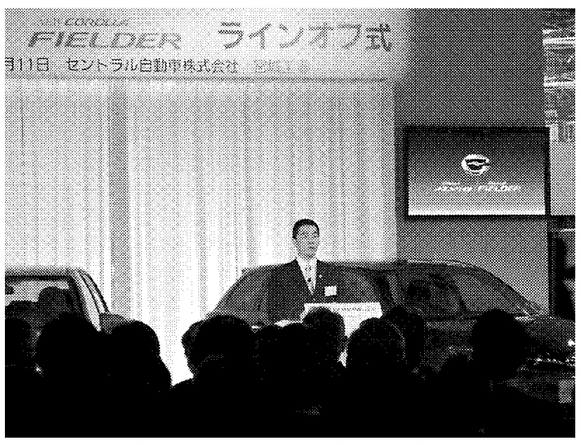
現地調達率の向上は2012年を復興元年と位置づける岩手、宮城、福島県にとって最重要課題だ。5月にセントラル自動車宮城工場（現トヨタ東日本本社工場）で行われた新型カローラのラインオフ式典で、村井嘉浩宮城県知事は「12年は復興にとって大事な1年であり、日本の国民車が東北、宮城県で生産されることは非常に意味深い。自動車産業が復興をけん引するよう行政としても人材育成も含めて幅広い支援を行う」とあいさつ。

豊田章男トヨタ社長も「自動車産業は裾野が広く、一つひとつの仕事が社会に大きな影響を与える。東北の元気が日本の元気につながり、自動車産業が発展することで他の産業も成長する好循環を作りたい。自動車産業を日本経済の復活のど真ん中に据えて、日本の元気につなげたい」と応じた。

ただ現地調達率の向上には課題もある。トヨタグループのサプライヤーとして食い込むためには、自社設備の改良や増強も欠かせない。「資金力がある企業はいいが、大量の部品を納入するとなると単独での投資はなかなか難しい」などといった声もあるのも現状だ。国や県は「さまざまな補助金などを活用し、参入に前向きな企業を応援していきたい」と背中を押す。

実際に展示会では日産自動車やホンダ、富士重工業、いすゞ自動車などに納入実績のある企業が多数参加していたが、トヨタグループでの採用まで至っていない企業も多かった。各社の採用実績を聞いた上で、葛原社長は「すぐに取引できる企業が多数あるのは心強い」とし、前向きに取り組む姿勢を改めて強調した。

参加企業からは「葛原社長に直接、技術力をアピールできた。興味を持ってもらった点をさらに磨いて、サプライチェーンの一角となれるよう努力したい」と手応えを感じていた。別の企業では「トヨタ以外の国内メーカーとは取引しているが、今回をきっかけに受注にこぎ着けたい」と意気込んでいた。



村井嘉浩宮城県知事は「自動車産業に幅広い支援を行う」とあいさつ

トヨタ東日本本社工場の新型カローラ生産ライン

TOYOTA

子どもも大人も同級生。
みんな、行きたくなる学校があります。

鳥の声や花の色、動物のあしあと。白山の森は、日々ちがう顔で迎えてくれます。
トヨタ白川郷自然學校で、生きている自然を体験してください。

世界遺産に登録された合掌集落の地、岐阜県白川郷。
この白山麓のふところに、ユニークな宿泊施設があります。トヨタ白川郷自然學校。ここは、温泉と食の恵みを堪能できるオーベルジュ。
そして、伝統文化に触れ、大自然と対話する学びのフィールドです。季節の体験プログラムや環境との共生プロジェクトに、
あなたも参加してみませんか？ 企業研修・ゼミなどでもご利用いただけます。どうぞ、みなさまでお越しください。

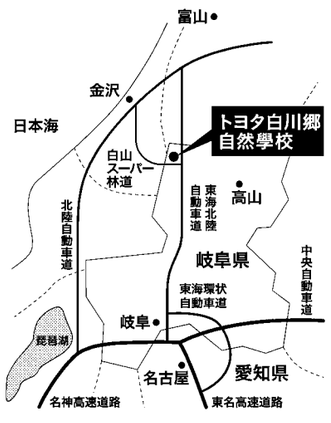
◆ネイチャーガイドなどのレギュラープランのほか、季節のオプションを揃えています。※詳細はホームページをご覧ください

レギュラープラン料金	
お1人様 1泊2食1ネイチャーガイド（消費税・サービス料込）	大人 10,600円～ ／ 子供 8,500円～

●和室または洋室、宿泊されるグループの人数に合わせた部屋をご用意します。
夕食はフレンチのハーフコース、朝食はカフェテリア方式の洋食となります。
●大人、子供ともにプラス2,000円で夕食をフルコースに変更可能です。
※年末年始等、特別期間料金を設けておりますのでご了承ください。※詳しくはお問い合わせください。

学校・企業研修等、
団体向けプログラムのオーダーも承ります。

●「新入社員」へのフォロー研修や「若手管理職もしくはリーダーシップを必要としている方々」への環境教育研修が可能です。研修対象や主旨を伺った上で、具体的な研修プログラムをご提案いたします。
●自然体験を中心としたプログラムもご要望に合わせてご提案いたします。
●学校団体の目的やご要望に合わせてアレンジいたします。



星空と温泉と自然体験のエコツアー

TOYOTA Shirakawa-Go Eco-Institute
トヨタ白川郷自然學校

ご予約・お問い合わせ　〒501-5620 岐阜県大野郡白川村馬狩223
Tel.05769-6-1187　http://www.toyota.eco-inst.jp　e-mail info@eco-inst.jp